The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「文化」の解読(22) : 文化とイデオロギー　はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2022, 2021
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88344
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2021」の一環として、「〈文化〉の解読（22）－文化とイデオロギー」という名称の下、合計 4 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、2 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名はマルチリンガルセンターに所属する教員であり、1 名は大学院言語文化研究科博士後期課程に在籍している。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」（2000 年度）、「〈文化空間〉の政治学」（2001 年度）、「文化の政治性／政治の文化性」（2002 年度）、「文化批判の機能をめぐって」（2003 年度）、「文化生産の諸相」（2004 年度）、「文化受容のダイナミクス」（2005 年度）、「システムとしての文化」（2006 年度）、「想像力としての文化」（2007 年度）、「文化とアイデンティティ」（2008 年度）、「文化と身体」（2009 年度）、「文化とトポス」（2010 年度）、「文化と歴史／物語」（2011 年度）、「文化とコミュニティ」（2012 年度）、「文化と公共性」（2013 年度）、「文化と翻訳」（2014 年度）、「文化と権力」（2015 年度）、「移動と衝突の文化現象」（2016 年度）、「神話的なものとその解体」（2017 年度）、「文化とメディア」（2018 年度）、「文化と記憶」（2019 年度）、「文化と伝統」（2020 年度）。22 年目となる 2021 年度は、「文化とイデオロギー」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 4 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、『荘子』の注釈書として影響力の大きい郭象（252-312）の『南華真經注』をとりあげ、とりわけ盗作論と郭象による「自然」概念の新解釈について論じている。山本論文は、ペーター・ハントケの原作小説との間テクスト的関係に目を配りつつ、ヴィム・ヴェンダースの『ゴールキーパーの不安』を分析し、とりわけこの映画における視点や見るという問題に光を当てている。徐論文は、任侠映画における女たちに注目し、とりわけ女優岩下志麻が、『五瓣の椿』から『極道の妻たち』シリーズにかけて、「姐御」というイメージを形成していくプロセスを跡づけている。津田論文は、村上春樹の小説『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』におけるシロによる虚偽のレイプ告発の謎を手がかりに、そこにみられる人間の心の奥に潜む「濃密な闇」の問題と楽園喪失のモティーフを考察している。

2022 年度からの文学研究科との統合により、今回が言語文化研究科としての最後の冊子となる。新研究科になっても「〈文化〉の解読」のプロジェクトを意欲的に継続していきたい。

2022 年 2 月

執筆者一同